強烈なインパクト

栃木県　**植竹久夫様**

去る五月の記念行事並びに祝宴に同席させて頂き、大変感謝しております。四十年ぶりに旧友にも逢うことができ、話しに花が咲いて楽しい一時を過ごすことができました。あの席で同級生一同意見が一致したことは、我々同級生の中にもこの様な傑出した大僧侶が居ること。更には世の中の人々のために大変な努力をされ、頑張っている姿に、新たに感銘を深くした事であります。最後に住職のご家族からの感謝の言葉を聞いた時、あの席にいた全員が目に涙を浮かべ感激に浸っていたことが、脳裏に焼き付いて離れません。それだけインパクトが強烈でした。

誰でもそれぞれいろいろな苦労を背負って重き人生を歩んで行くのですが、今まで黒田住職様の素顔が表面しか見えていませんでしたが、あの会場にてあの様な実情を披露され、ご家族の方々も大変なご苦労をされて今日まで来たことを初めて知ることができました。これが為に檀家の方々並びに参会者の方々との

関係も一層結び付きが深まり絆も強くなっていくものと確信いたしております。我々の年代は人生の峠を過ぎてどちらかというと後ろ向きな考えに囚われ、行動も消極的になりがちですが、黒田住職様の姿、生き様を見て、新たに勇気づけられて帰宅致しました。

遠い昔、東京五反田、桐谷寺の頃の想い出が、今でも走馬燈のように瞼に浮んできます。小生も上京して、あの地域で初めて自分の所帯を持った時代でした。昨年あの周辺を訪れる機会があり散策してきましたが、その当時の面影は殆どなくなり時代の移り変わりをひしひしと感じました。人生にも同じ事が言えますね。お互い馬齢だけは重ねていきますが、まだまだ青年のような気持ちを何時までも持ち続けていきたいものです。

身を以て行動

栃木県　稲垣重弘様

去る五月の祝賀会、大変盛大に行われ、本当にお目出度うございます。事前の準備も大変だったろうと思います。貴兄の当日の気配りには只々感服致しました。参会者の皆様が楽しく集い話し合っておられる姿を見たとき、日常の活動がどう行われているかが手に取るように判りました。日常宗教への関心を余り持たずに生活するのが日本人一般なのですが、当日お集まりの皆さんは（ご寺院関係者を除いて）日頃の貴兄への感謝の気持ちを一杯に表現し、行動で示されていたと思います。『成寿』に貴兄の活動の様子、状況が詳細に報告されていますが、一つの布教活動だと思います。

「宗教とはこういうものだ」という大上段の構えが『成寿』

には感じられません。本来仏教をはじめ宗教とは人の生きていく道筋を示し、教え、一緒に考える教育機関の一つではなかったでしょうか。人の一生の延長線上に「人の死」もまたあります。従って生身でなくなった人の黄泉の世界の導きも宗教の大きな活動の場面とは考えますが、本来は生前に黄泉の世界への導入もされるのが宗教の仕事ではないかと思います。この点『成寿』はこの面での内容を沢山含んでいると感心しております。「生あるもの必ず死す」当たり前のことですが、自分だけはいつまでも死を迎えることがないような気になって生活しているのが現実です。この辺の真理を十分に理解させ、安心して死を迎え入れる力を与えてくれるものが宗教かとも考えます。

『成寿』二十八号の阿部先生の稿になります鑑真和上の齢五十五歳に日本に渡ることを決意する件がありますが、これこそ布教活動の精神ではないでしょうか。六回目に渡航に成功し、「形だけの僧尼が多く、その風紀は乱れがち」の日本の仏教界を糺し、形、質ともに真正の仏教教団を確立したとありますが、貴兄もある意味では仏教とは何か、何を成すべきかを身を以て行動されているように受け取っています。このことは貴僧を知る私たち同級生皆の見方でもあります。なお、貴兄を支えている奥様の存在なくして現在の善光寺が存在しないと言えば言い過ぎかもしれませんが、決して否定は出来ないでしょう。祝賀会の席上関係者がこのことにも言及していましたが、男にとって女房あってのものです。これからも二人三脚の心構えで邁進下さい。

善光寺と長光寺

東京都　瀧澤博夫様

私は、過日尾山篤二郎三十七回忌法要に参列いたしました尾山先生の短歌の弟子で、尾山先生の伝記を研究しております。

昭和三十八年の年譜に「六月二十三日永眠、九月二十八日横浜市港南区日野町長光寺で百ヵ日の法要あり」とありまして、五十四年六月十七日十七回忌が善光寺で行われ、これには私も出席いたしました。

このたび『成寿』第二十九巻をいただきまして「横浜善光寺開創三十年の歩み」を拝見いたしましたところ、35頁に「昭和三十六年林堅峰和尚が、善光寺の現在地に小庵を建てられましたが、志半ばにしてお亡くなりになりました（昭和四十三年）」とあり、四十四年に善光寺が開創したことを知りました。私は法要の場所が長光寺から善光寺になったのは何故なのかと、長い間疑問に思っておりました。林堅峰和尚の小庵というのは長光寺のことでしょうか。また林氏は三重県松阪に関係のある方でしょうか。と申しますのは尾山先生の弟子に阪倉松二郎という松阪の人がいて、長光寺の住職とお知り合いで、そんな関係から尾山先生の墓を日野墓地に決めたのだと聞いておりましたものですから、長光寺がなくなったので同じ場所に創建された善光寺で法要が行われたということなのかと、『成寿』を拝見して納得した次第でございます。

御立派な堂宇を拝見して御発展の御様子まことによろこばしく存じ上げます。私の推測が正しいかどうか知りたく存じております。何卒よろしくお願い申し上げます。